

国際福祉機器展 (H.C.R.2002) 調査報告

はじめに

今年で29回目を迎えた国内最大規模を誇る国際福祉機器展H.C.R.2002が、平成14年9月10日(火)～12日(木)までの3日間、東京ビッグサイト東ホールで開催された。福祉機器展示のほかに連日開催されるワークショップ、セミナーも充実し、3日間の入場者数は13万人を超え大盛況であった。

国内外における福祉機器メーカー等(国内534社、海外83社)が一堂に集まり、移動機器、ベッド用品、入浴用品、トイレ・おむつ用品、日常生活用品、コミュニケーション機器、建築・住宅設備、施設用設備・用品といった多種にわたる福祉機器、用品、設備等25,000点が出展されていた。

この展示会は福祉関係者、ユーザー、これから福祉に関連する事業展開を図ろうとする事業者にとっては、最新の福祉機器情報を入手する国内唯一の展示会である。ブースによっては営業担当者だけでなく、開発に携わった担当者からも製品に関する特徴、操作性等について詳細な説明を聞くことも可能である。また、会場へは多数の福祉関係者が来場するため、現場における生の声を直接聞き、機器開発の手掛かりをつかむことができる。

自動車、車いす関連共に賑わう

自動車関連の展示ブースでは、例年同様に色とりどりに着飾ったコンパニオンが、各メーカーの商品説明を競い合っており賑わっていた。こうしたプレゼンテーションがどこまで商売に繋がるか明確でないが、確実に多数の来場者をブースへ集客し、的確に福祉車両に関する情報伝達が行われた。

車いす関連では、近年手動車いすメーカーもユーザーの要望に応え、電動車いすの販売を手掛けるようになり、手動車いす、電動車

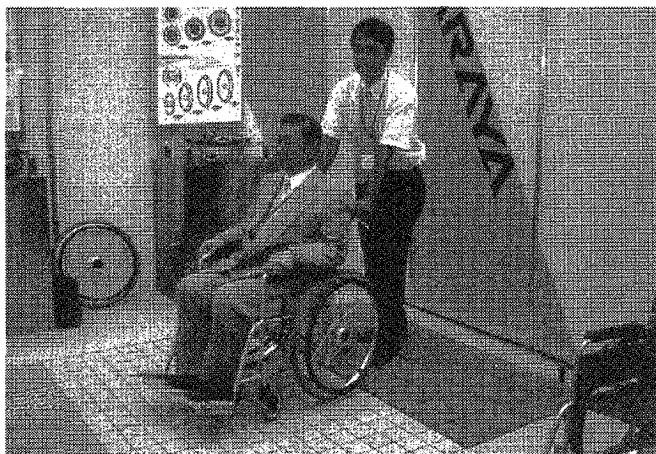


写真1 新家工業(株)ブース

いすメーカーといったすみ分けがはっきりしなくなってきている。車いすも標準型車いすばかりでなく、各種スポーツ関連の車いす、背、シート及びフットレスト部が同時に傾斜するチルトタイプ車いすについても多数出展されるようになってきた。また、成形合板、竹といった木材を利用した木製車いすの開発が、地場産業活性化の一環として各地の工業技術センター等を中心に進められ、車いすの種類が確実に増えてきている。さらに、車いすユーザーの乗り心地に関連したオプションパーツであるショックアブソーバーが海外で発表されて以来、国産メーカーも独自の方法による製品開発を行い、この展示会では4種類ほど発表された。

自転車の技術を

今後訪れる高齢化社会では、ユーザーに最適な車いすを提供するためにも、自由に寸法変更が可能なモジュールタイプ車いすの普及が望まれよう。大手車いすメーカーでは、既にこうした車いすへの対応を図っている。今回の展示会では、レンタル用車いすにおいてもモジュールタイプの出展があり、メーカーの時代に即した対応がうかがえた。

車いすの調整機構は従来ネジにより行ってきたが、自転車用クイックリリースの装着により一部工具無しでも調整ができる車いすが導入されるようになった。こうした調整部品の改善により、自分にあった車いすの調整が容易になった。自転車業界からも、衝撃吸収機構を持つキャスター・駆動車輪(写真1)、車いす用ハブ(写真2)、手動車いす(写真3、4)といった製品が展示されていた。

技術研究所で開発した障害者・高齢者向けの移動機器であるトランスポートビークルは、車いすメーカー(株)松永製作所:写真5)により販売されることになり、今後は少しずつではあるが市場に出回っていくことであろう。車いすとは一味違うこのような乗り物に対する期待がユーザーから求められている。



写真2 唐沢製作所ブース



写真3 (株)坂本製作所ブース

技術情報

おわりに

この展示会は、多種にわたり開発された福祉機器に直接触れ、体験し、自分にあった機器を選択することができるため、高齢者の生活改善、障害者の自立した社会参加への一助となっている。今後福祉での事業展開を検討している関係者にとっても最新情報を入手するためには大変参考になる展示会である。

来年も東京ビッグサイト東展示ホールで10月15日（水）～17日（金）までの3日間開催されるため、福祉機器の最新情報を必要とする関係者は、労力を惜しまずこの広い会場をくまなく周り、手掛かりとなる情報を入手することをお勧めする。

（技術研究所 開発事業部）



写真4 丸石自転車（株）ブース

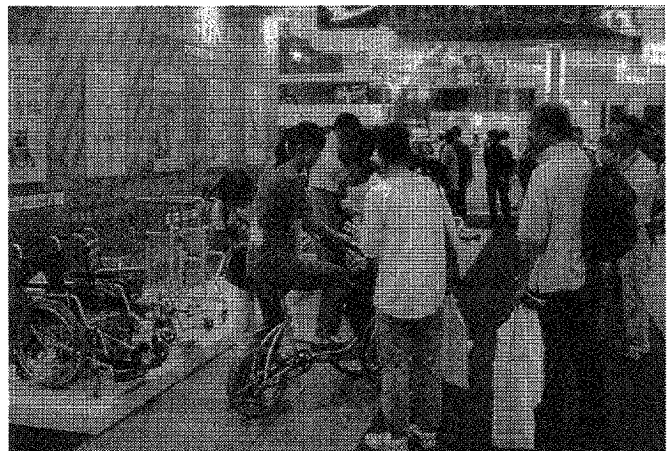


写真5 トランスポートビークルに試乗中